



開物成務

令和7年2月28日(金)発行

校長 津田 千由美

“すてきさん”が『つくる・そだてる』じまんの学校

つながる学び

この時期になると、いつも思い出す詩があります。昔の国語の教科書に載っていたので、ご存じの方もいらっしゃることでしょう。それは、**河井醉茗(かわいすいめい)** 作の「**ゆずり葉**」という詩です。一節を紹介します。

子供たちよ。これはゆずり葉の木です。
このゆずり葉は新しい葉が出来ると
入り代わって古い葉が落ちてしまうのです。
こんなに厚い葉こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずって――。

家庭・地域の皆様に支えられ、開成小の子どもたちも次の学年に学びをつなげ、新しい学年へ飛躍しようとしています。

ハッピーハッピー大作戦

今日28日(金)は、いよいよ来年度入学予定の開成幼稚園年長さんをお迎えする日です。これまで1年生は、生活科の時間を使って準備を進めてきました。

迎える側の1年生から「こんなことがやりたい」というアイデアがたくさん出され、「おみせやさん」「プレゼント」「あんないばん」「そうじ」など、6つのプロジェクトチームが生まれました。名付けてハッピーハッピー大さくせん。子どもたちからは、
「教室にさくらをたくさん飾りたい」
「教室の案内板をひらがなにしたい」
「ロッカーの使い方やルールを教えてあげたい」
など、新たな「やりたい」が日々更新されていきました。

年上のすてきなお兄さん、お姉さんに1歩ずつ近づいています。



6年生おめでとう集会へ向けて

「卒業式まであと〇日」6年生は卒業までのカウントダウンが始まっています。卒業式に参加するのは5年生のみ、1～4年生は参加しません。そこで、卒業式の前に全校で6年生への感謝の気持ちを表そうと、例年「6年生おめでとう集会」が開かれています。

この会を計画・運営するのは5年生の役目で

す。5年生の各クラスから選ばれた実行委員を中心に、学年全体が3つのチーム(壁画・メッセージカード・パンジー)に分かれ、活動を進めています。

こうした活動をとおして、違う学級の児童とも新たな交流が生まれ、最高学年になる意識が一步步育っています。



6年間の総合の集大成

6年生の総合のテーマは「食」についてです。共通テーマではありますが、学級によって子どもの興味関心や課題意識が異なるため取組は様々です。

1組は、開成町の地産地消について興味をもち、調べ学習や取材を行いました。開成町産の弥一芋、快晴茶、ホワイトショコラの紹介や



地産地消の大切さを各学年に知らせたり、ひな祭りイベントに合わせて瀬戸屋敷や隣接する hacco (ハッコ) でボランティア活動をしたりしました。

2組と3組は、開成町にあるいくつかのお店を訪ね、食品ロスを生まないための工夫などについて調べました。自分たちも何かできることはないかと考え、2組は、開成町産の食材を使ったオリジナルメニューを開発しました。MFキッチンさんのご協力により、昨年12月21日には、1日限定で店頭販売をしていただきました。



また、3組は、お店から出る廃油をリユースしてキャンドルを作ることになりました。いよいよ今晩は、希望者が学校に集まり、キャンドルパーティーを行います。

6年生は、総合の学習を通して「自分も地域の大事な一員である」ことに気づき、6年間の感謝の気持ちをこめて地域へ大きな一歩を踏み出しています。



全校リズムなわとび

1月の約半月の間、体育の授業を中心に全校で持久走記録会に取り組みました。2月は、体育委員会主催による「リズムなわとび」に挑戦です。体育の授業だけでなく、中休みにも音源を流し、希望者は自主的に練習に参加しました。

「先生、見て見て！ 二重跳びができるようになったよ」

嬉しそうに報告してくれる子どもたちが日に日に増えていきました。

また、冬場のこの時期は外遊びが激減するのですが、今年は大勢の子どもたちが外に出ていたことも大きな収穫です。

2月26日（水）の中休みは練習最終日。全校が（もちろん先生たちも）グラウンドに出て、リズムに合わせて楽しく跳びました。その様子を体育委員会の子どもたちがビデオ撮影…後日各教室に配信してくれるそうです。すてきな計らいです。



学習ボランティアさん、ありがとうございました！



この写真は、2年生の図工の授業風景です。カッターナイフを使う初めての学習でした。教室には学習ボランティアさんと生活支援員など、担任以外の大人が7人もいました。適度な距離感を保ち、子どもの安全を見守りながら、活動上の困り感にさりげなく対応していらっしゃいました。

2時間続きの授業でしたが、集中力が途切れることなく、最後は「上手にできた！」と喜びを表す子どもたちの姿が印象的でした。

コロナ禍を経て、各学年の授業の中に、彫刻刀、のこぎり、包丁、ミシンなどを扱う実習場面が戻ってきました。水泳学習も含めて、都度、学習ボランティアさんを募ってきましたが、どの学年にも多数の方々をご応募くださり、おかげさまで充実した時間を送ることができました。

子どもにとっても大人にとっても、互いに顔の分かる関係性が築けたことは大きな成果です。

1年間のご協力ご支援に対し、心より感謝申し上げます。

わたしのひとりごと

「痛み分け効果」…これは、私が勝手に創った造語です。家に帰ってきたお子さんが、学校であつた嫌なことを訴えたら、どうしますか？

例えばこんな感じ…。

「お母さん、今日、私の服を見たAちゃんに、『何それ、ダサい』って言われた！」

対応①

「なにそれ、いじめじゃん！ 前もAちゃんから嫌なこと言われたよね。先生に言った？言わなきゃだめだよ！」
そして、早速学校に抗議の電話を入れました。

対応②

「なにそれ、お母さんも悲しい。この服お気に入りだったのに。嫌だったね。」
そして、「どうする？先生に相談してみる？」と子どもに問いかけました。

子どもにも自律の力が育つのはどちらでしょうか。言わずもがな、②の対応です。小さな子どもの場合、「悔しかったね」ギューッと抱きしめてあげると、案外ケロッとしてしまうことも多くあります。

子どもは、大好きな家族に、「悲しかった」「悔しかった」「嫌だった」という負の感情を一緒に分かち合ってもらいたいのです。気持ちを受け止めてもらえた子どもは、自分自身で問題に向き合い、解決しようとすることができます。

子どもの痛みを分かち合うことは、親自身の心にも痛みや傷つきが伴います。だとしても、乗り越える力をつけるチャンスをはたしてはもったいない！
「痛み分け効果」は絶大です。

